

JALスカラシップが紡ぐ絆



1

JALスカラシッププログラムとは

2019年に実施50回目を迎えた「JALスカラシッププログラム」。アジア・オセアニアの大学生・大学院生二十数名を日本に招待し、同じく二十数名の日本人学生とともに、2〜3週間かけて日本を知ってもらい、相互理解を深めることを目的として、公益財団法人JAL財団とJALが開催しています。

毎年異なる研究テーマを掲げ、講義はすべて日本語。フィールドワークや文化体験、寝食をともにしながらテーマについて議論を深め、成果発表という形で結果を出す、充実のプログラムです。

この過程でさまざまな国・地域の学生たちが、お互いの違いを認め合いながら強い絆を育み、日本滞在中だけでな



2

く、その後何十年にもわたる信頼関係を築いています。

JAL財団は、国内外あわせて約2000名となるこのプログラムの卒業生たちのために各国・地域での同窓会も開催していますが、そこに集う卒業生たちの多くは経済界・ジャーナリズムなどの分野で大きな影響力を持ったたり、



3



1.金沢駅・鼓門前にて(2019年7月)。2.遠野ふるさと村でハンカチの絞り染め体験。3.アジアフォーラム in 石川での公開シンポジウム。4.遠野の伝統的な曲家を満喫。5.石巻市立大川小学校跡にて、津波の威力を肌で感じる。6.白山市での俳句創作体験。

閣僚、州知事、外交官といったリーダーとして活躍したりしています。

50回目の研究テーマ

そんな未来のリーダーたちを育てるJALスカラシッププログラム2019年度のテーマは、東日本大震災に学ぶ「防災・減災」、そして「SDGs」の2本立てでした。

夏休みを利用して成田や羽田に集結した26名の学生たちは、「防災・減災とSDGsについて考えよう——将来世代のために今私たちができること」と題して、宮城・岩手・石川・東京を、23日間かけて巡りました。

宮城・岩手では被災された方々や災害科学の第一人者の話を聞き、映像やデータを見ながら、防災・減災の取り組みの重要性、復興のあり方、考え方について学びました。

石川ではSDGsについてカードゲームなどを活用しながら理解を深めたほか、お互いの国や日本の歴史・文化を知るイベントや、ホームステ

イ体験も行われました。東京ではSDGsの達成に必要な「Think Globally, Act Locally」という考え方や、日本政府が取りまとめているアクションプラン、日本のSDGs達成に向けた具体的な取り組みなどを学び、最後には公開シンポジウムで成果発表を行いました。

協力し合える平和な社会へ

「さまざまな困難を乗り越えて50回も継続してきたプログラムですが、残念ながら2020年度は中止となってしまいました。51回目は一層充実し、バラエティーに富んだ、未来につながるプログラムを練っています」とJAL財団の高橋大は語ります。

JAL財団とJALグループは、これからもSDGsの理念を大切に、国境を超えた相互理解を促し、国際的な視野と行動力を持った若者の育成を通じて、人々が協力し合える平和な国際社会の実現に貢献してまいります。

今回のテーマに該当する目標



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的な社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。



第51回 JALスカラシッププログラムのご案内